



5A 病棟看護師の大久保由加さん

■2017.5.15

日本輸血・細胞治療学会の【学会認定・臨床輸血看護師制度】を受験し、無事に合格した大久保さんを紹介します。

同種血輸血の安全性が向上してきている今日、自己血輸血が推進されています。当院でも看護師が採血をして貯血式自己血輸血で数多くの手術に対応しています。その採血をする場合に、しっかり教育を受けた看護師が採血時の細菌汚染や血管迷走神経反応などの危険性を加味して適切に実施することが求められます。輸血療法全般・血液型検査をはじめとする実習や見学等々の知識やスキルを習得後に学会認定の受験をして合格に至ります。

大久保さんは消化器内科病棟に勤務しています。この制度に受験したきっかけは大きくわけて2点あったそうです。1点目は自らのキャリアアップ、2点目は指導的立場になり適切な輸血看護の実践とスタッフ指導の実施、とっていました。

自己血輸血の合併症状を予防してリスク管理をしていくためには医師・看護師・臨床検査技師と協働して自己血輸血システムを構築していく必要があります。さっそく、大久保さんには今年度から「輸血部会」の構成員になり、活動しやすい環境にしました。

輸血治療を受ける患者さんの安全と、輸血看護の質の向上に大久保さんのこれからの活動に期待したいと思います。

さあ、明日からも患者さんのため、病院職員のために頑張ります。